Rikkyo University
Volunteer Center

# 立教大学ボランティアセンター設立一〇周年記念シンポジウム

## 高等教育機関としての大学における ボランティアセンターの基本理念と役割

**日時：2013 年 12 月 7 日（土）12:30～17:15**

**場所：立教大学池袋キャンパス**
**太刀川記念館 3 階 多目的ホール他**
※申込不要、入場無料

### ボランティアセンター設立 10 周年感謝礼拝

12:30～13:00 《場所》池袋キャンパス 立教学院諸聖徒礼拝堂
《司式》宮﨑 光（ボランティアセンター副センター長、大学チャプレン）

### ボランティアセンター設立 10 周年記念シンポジウム

**13:30～14:30**

総長挨拶 立教大学総長 吉岡 知哉

**特 別 講 演**

**「陸前高田の現状と課題、そして希望ある未来へ」**
《講師》戸羽 太氏（陸前高田市長）
《司会》宮﨑 光（ボランティアセンター副センター長、大学チャプレン）

**14:45～17:15**

**シンポジウム**

**「立教大学でのボランティア活動**
**～東日本大震災復興支援ボランティアの実践～」**

シンポジスト
根岸 えま（社会学部 4 年次生、2012 年ポール・ラッシュ博士記念奨学金受給者）
浅見 由希乃（コミュニティ福祉学部3年次生、Three-S 学生ボランティア）
中村 みどり（ボランティアセンター ボランティアコーディネーター）
及川 賢一 氏（陸前高田市社会福祉協議会事務局長）

コメンテーター
西田 邦昭（東日本大震災復興支援本部副本部長、副総長）
《司会》平野 方紹（ボランティアセンター長、コミュニティ福祉学部教授）

【総合司会】逸見 敏郎（ボランティアセンター副センター長、学校・社会教育講座教授）

**17:30～19:00** 懇親会
場所:池袋キャンパス 第一食堂 2 階「藤だな」 ※要申込

問合せ先 立教大学ボランティアセンター TEL：03-3985-4465
volunteer@rikkyo.ac.jp

## ボランティアセンター設立 10 周年感謝礼拝

### 「原点・初心」を再確認する「10 周年」に （奨励採録）

〔マルコによる福音書 12:28～34〕

司祭　パウロ　宮﨑　光

「立教大学ボランティアセンター」設立から 10 年を数える今年、この活動に関わってこられたり、物心両面で多大なお支えをいただいた方々と共に、神への感謝の祈りをささげられる機会が与えられたことを、深く喜びたいと思います。また特に「10 年」という節目を、私は、新たに巡る月日に向かっての再スタートを切る時としてとらえようと思います。「10 年」は決して長い歴史ではありませんが、そこに至る経緯（ボランティアセンター設立の経緯）、またその初期の理念、設立の精神というものは、一朝一夕で築かれたものではありません。その原点・初心に立ち返るきっかけの日としたいと思います。

そこで、「原点・初心」をどこに見るのかということを問い直しておきましょう。

本日のシンポジウムで配布される資料を準備する中で、私たち立教大学ボランティアセンターは、これまでの歩みについての略年表を作成しました。それによると、センターとして独立した設立年は 2003 年、10 年前のことですが、それにさかのぼることさらに 10 年、1993 年に、チャペルの諸活動を司る「チャプレン室」という部署に「ボランティアセンター」が発足しています。これは、それまでのチャプレン室の主催するボランティアキャンプや、チャペルに連なる学生キリスト教団体の諸活動において関わりのある対外諸施設のつながりと広がりを、さらに広く情報提供し、活動を共有することで深める動きとなりました。

年表では、さらに時代を一気にさかのぼり、立教大学におけるボランティア活動の発端を、1926 年、ポール・ラッシュ博士が立教大学に着任し、翌年（1927 年）には BSA（聖徒アンデレ同胞会）という祈りと奉仕をモットーとしたグループを立ち上げたことに置いています。それは、1923 年の関東大震災から 4 年後、日本の再起・復興途上の時代でした。

しかし、さらに「原点・初心」の源、根源には何があるのかをさかのぼるならば、私は、ボランティアマインドの根源は、『聖書』にあり、イエス・キリストの教えにすでにあった、と申し上げさせていただくことになります。

この礼拝で読みました「マルコによる福音書」では、ユダヤ教律法学者とイエスとの対話が記されています。「あらゆる掟のうちで最も大切なことは何か」という律法学者の問いに、イエスは「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、主なる神を愛すること」と答えました。そして続いて、「隣人を自分のように愛しなさい」という掟、「この二つにまさる掟はほかにない」と答えました。この対話においては、第一の答えと、第二の答えには、優劣、序列はありません。同じように、同等に最も大切なものです。

もっと言えば、二律背反な教えなのです。噛み砕いて言うならば、こういうことです。

「神を愛する」と言って熱心に神を信じる姿勢を貫く人が、「人を愛さない」「隣人・他者への関心はない」ということであれば、それは「神を愛している」ことではないのです。

「隣人を愛する」という純粋な姿勢を貫く人は、「神については関心ない」と思っていても、それは「神を愛している」ことと重なり合うのです。

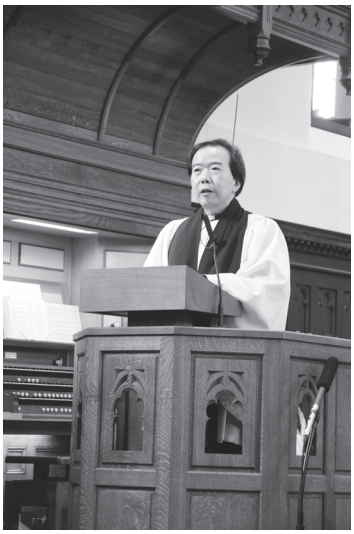
私のとらえる「原点・初心」の根源、ボランティアマインドの核心には、このイエスの教えがあります。隣人・他者への徹底的な関わりをする中に、同時的にそれは「神を愛する」という教えを遂行する業になっているのです。その根拠は、聖書が伝

える「神」というものが、徹底的に「人」というものに関心を持ち、徹底的に「人」と共に寄り添い続けることを本望とした存在だからです。

「神」とは人から離れた、遙か遠くの存在で、崇拝される対象物に終始するのではありません。「人と人との出会いや関わり」の中にこそ、存在するものだと私は信じています。

立教大学ボランティアセンターの「原点・初心」を、「人と人との出会いと関わり」から生み出されてきた活動、起こってきた出来事、その一つ一つに再確認しながら、新たな歴史を共に歩んでまいりましょう。

（大学チャプレン　ボランティアセンター副センター長）



# 立教大学ボランティアセンター
# 設立１０周年感謝礼拝

2013年12月7日（土）

立教学院諸聖徒礼拝堂

## 序　言

皆さん、わたしたちは今、神のみ守りと導きによって、立教大学ボランティアセンター設立10周年を記念する感謝礼拝を行うために、ここに集いました。ご一緒に心を合わせて祈り、過ぎし年月をかえりみ、明日に向かっての新たな決意をいたしましょう。

## 詩編による唱和

司式者　主はわたしの光、わたしの救い、わたしはだれをも恐れない
一同　**主はわたしの命の砦、わたしはだれをはばかろう**
司式者　わたしは主に一つのことを願い求める。
生涯、主の家を住まいとし
一同　**主の麗しさを仰ぎ見て、主の宮で思うことを**
司式者　主よ、わたしが呼ぶとき、わたしの声に聞き
一同　**わたしを憐れみ、こたえてください**
司式者　わたしは堅く信じます
一同　**神に生きる人びとの中で、神の美しさを仰ぎ見ることを**
司式者　主を待ち望め
一同　**心を強くして主を待ち望め**
司式者　栄光は、父と子と聖霊に
一同　**初めのように、今も、世々に限りなく　アーメン**

（『日本聖公会 祈祷書』詩編第27編より）

## 聖書朗読　マルコによる福音書　第12章28〜34節

司式者　聖書のみ言葉を聞きましょう。

28 彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答
えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょう
か。」29 イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエル
よ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。30 心を尽くし、
精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛し
なさい。』31 第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』
この二つにまさる掟はほかにない。」32 律法学者はイエスに言った。「先生、
おっしゃるとおりです。『神は唯一である。ほかに神はない』とおっしゃっ
たのは、本当です。33 そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして
神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽
くす献げ物やいけにえよりも優れています。」34 イエスは律法学者が適切な
答えをしたのを見て、「あなたは、神の国から遠くない」と言われた。もは
や、あえて質問する者はなかった。

## 奨　励

立教大学チャプレン　宮﨑　光

## 祈　り

司式者　慈しみ深い神よ、常に先となり後となってわたしたちを守り導き、
設立10周年の記念の時を迎えられたことを感謝いたします。
わたしたちが共に新しい明日を築くための力をお与えください

一同　**主よ、わたしたちを恵み、導いてください**

司式者　命の源である神よ、わたしたちそれぞれに与えられている豊かな
賜物を用い、いよいよ知識を深め、健康を増し加え、人格を高め、
「神と人びとのために」働く者としてください

一同　**主よ、わたしたちを恵み、導いてください**

司式者　天の父よ、わたしたちを助け、平和を愛し、自分のことばかりで
なく隣人のことをも考え、自分を愛するように隣人を愛する心を
お与えください

一同　**主よ、わたしたちを恵み、導いてください**

司式者　主は皆さんとともに

一同　**また、あなたとともに**

司式者　祈りましょう

### （設立10周年感謝の祈り）

造られたすべてのものを愛される主よ、立教大学ボランティアセンターを守り、設立10周年記念の式を行えることを感謝し、み名をほめたたえます。どうかこの恵みを忘れず、たがいに相親しみ、相和らぎ、それぞれの本分を尽くし、社会にあって常にみ心を行う道を歩ませてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。**アーメン**

### （立教学院のための祈り）

真理と光の源である神よ、立教学院に連なるすべての人びとを守り、その活動を支え導いてください。
学ぶ者と教える者、またそれを助ける者が、共に勇気と希望を分かち合い、真理と平和を追い求めることができますように。
また、愛の魂と正義の心をもって人びとと出会い、その豊かさを共に

喜ぶことができますように。主イエス・キリストによってお願いいたします。**アーメン**

## 平和の祈り（アシジの聖フランシスによる）

ご一緒に唱えましょう。

主よ、わたしたちを平和の 器 にしてください。
憎しみのあるところに愛を、 争 いのあるところに和解を、
分裂のあるところに一致を 疑 いのあるところに信頼を、
誤 りのあるところに真理を、絶望のあるところに希望を、
暗闇に 光 を、悲しみのあるところに 喜 びを
もたらす者としてください。
主よ、なぐさめられるよりもなぐさめることを、
理解されるよりも理解することを、
愛されるよりも愛することを、求めさせてください。
なぜならわたしたちは、与えることによって与えられ、
赦すことによって赦され、自分の 命 をささげることによって、
永遠の 命 に生きる者とされるからです。アーメン

## 祝　福

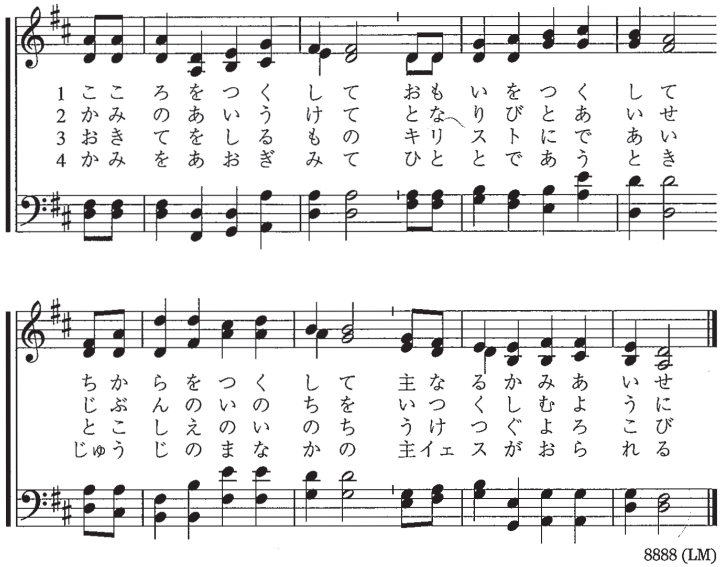
父と子と聖霊なる全能の神の恵みが、いつも皆さんとともにありますように。**アーメン**

## 聖　歌　　第 489 番「心を尽くして」

奏楽：立教学院諸聖徒礼拝堂オーガニスト・ギルド
高久　歩（文学部キリスト教学科２年）








8888 (LM)

1 心を尽くして　思いを尽くして
力を尽くして　主なる神 愛せ

2 神の愛 受けて　隣人 愛せ
自分の命を　慈しむように

3 掟を知る者　キリストに出会い
とこしえの命　受け継ぐ喜び

4 神を あおぎみて　人と出会うとき
十字の真中の　主イエスがおられる

マタ22：34－40　マコ12：28－34　ルカ10：25－28

Kokoro o tsukushite
Paul Hikari Miyazaki (1965-)

YOKOHAMA
John Ryuta Suzuki (1959-)